

要旨

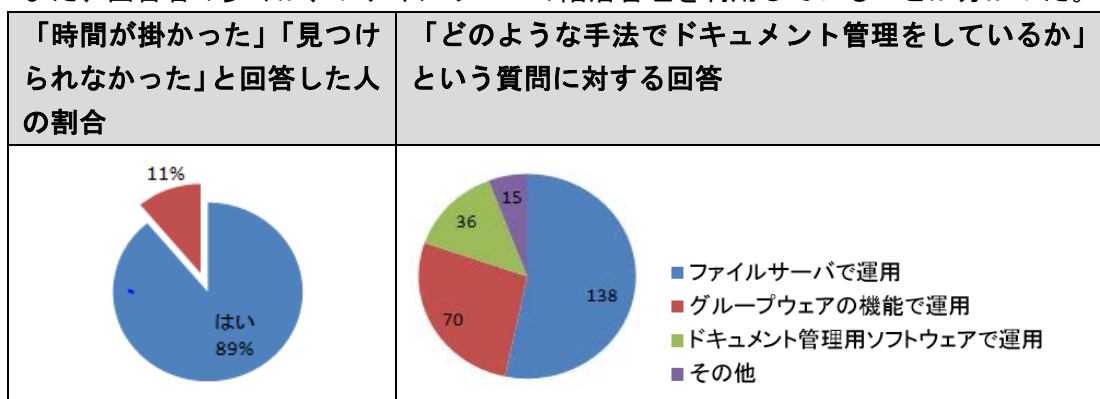
「IT現場で日々蓄積される情報資産の有効活用を考える」

1. 背景

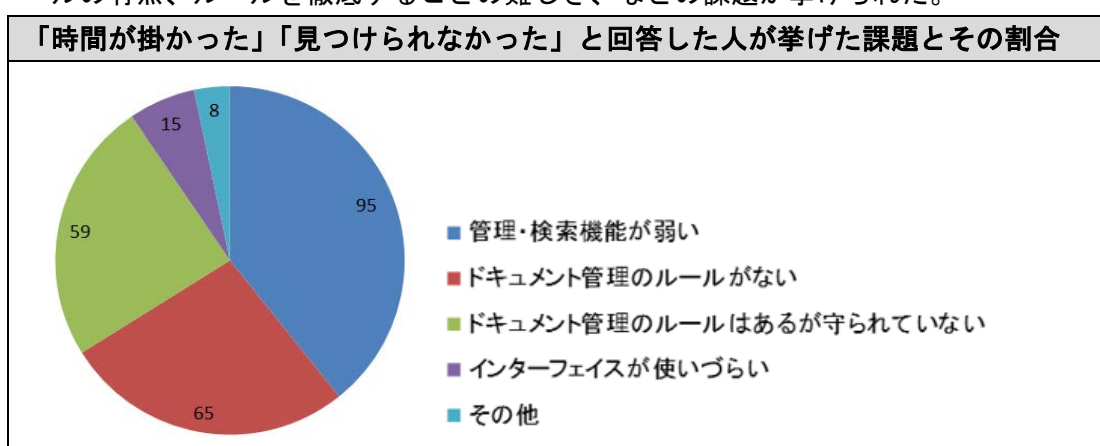
IT現場では、多種多様のデジタル・データが情報資産として日々大量に蓄積されている。これらの情報資産は「誰が必要な時に、必要な資産を利用できる」ことが重要である。当研究グループでは、企業内に散在する文書等のデジタル・データにフォーカスを当て、日々増え続ける情報資産を有効活用につなげるためのマネジメント手法を検討した。

2. 現状の課題

当研究グループは、UNIRITA ユーザ会メンバー164名に対して、現在のドキュメント管理の課題に関するアンケートを実施した。その結果、多くの現場で「必要な情報を見つけるのに時間が掛かった」または、「見つけられなかった」との回答が得られた。また、回答者の多くが、ファイルサーバの階層管理を利用していることが分かった。



ファイルサーバの利用者からは、検索機能の柔軟性の乏しさや、階層管理に伴うルールの有無、ルールを徹底することの難しさ、などの課題が挙げられた。



アンケートの結果を受け、課題として挙げられた各項目を改善できる仕組みを確立することは実現可能ではないか、という結論に至った。

要旨

3. 解決策の提示と検証実施について

課題として挙げられた、検索機能の柔軟性の乏しさや階層管理、に伴うルールの煩雑さを解決するために様々な手法を検討した。その中で、メタデータを活用することにより、ファイル名や文章中の表記揺れ、階層に依存しない検索を実現できるのではないかと考えた。以下に、メタデータを利用する際の課題点および、検討・検証内容について記載する。

① メタデータ付与の負荷軽減

当グループでは研究開始当初より、メタデータの付与をどのような手法で行うのかが課題となっていた。情報の登録者・管理者がそれぞれ手作業で付与する方法は工数がかかるため、負担軽減を考慮し、メタデータの自動付与方法についての検討・検証を行う。

② メタデータの付与だけでは不十分

メタデータで与えられる「情報」のみでは限界があるという課題に対して、他のマネジメント手法を組み合わせ、相互補完、相乗効果を得ることができないか検討・検証する。検討対象として、「ファセットナビゲーション」の活用を考えている。

③ 有効なメタデータの付与

当グループの目標・目的は「有効活用」である。単に「情報」を付与したり、検索を便利にするだけの基盤構築ではなく、「早くなった」、「便利になった」が実感できるよう検討・検証する。

4. 考察

今回の研究では、「有効活用するために人手が必要」といった管理者や利用者の一方的な負担増加にならないよう検討を進めた。当グループが検討したマネジメント手法を情報資産に対して活用することにより、必要最小限の手間で「誰もが必要な時に必要な情報を手に入れる」ことができ、結果的には、その情報が最大限「有効活用できる」ようになるものと考えた。

文章内の記載の会社名および製品名は、各社の登録商標および商標です。

以上